

## 第1分科会「学校教育とPTA」

提案者 提案県：山梨県

所属校：県立身延高等学校

役職：PTA会長 氏名：望月亜莉沙（もちづきありさ）

発表テーマ：「地域とともに歩むPTA活動」

### 1 学校の概要

本校は、山梨県の身延町にある、生徒数172名（1年次生58名、2年次生49名、3年次生65名）の小さな県立高校です。学校所在地の身延町は、人口1万人に満たない小さな過疎の町ですが、豊かな自然に恵まれ、日蓮宗の總本山「身延山久遠寺」や、武田信玄の隠し湯といわれる「下部温泉」などを擁し、西嶋和紙やあけぼの大豆などを特産とする歴史・文化に支えられた町です。最近では、アニメ「ゆるキャン△」の聖地として有名になりました。

その身延山の麓に、大正12年4月、山梨県立身延中学校として開校したのが本校です。戦後の学制改革による名称変更を経て、身延高等女学校と統合し、昭和25年4月に山梨県立身延高等学校となりました。その後何度かの学科改編を経て、平成25年4月に「普通科目を基軸とした総合学科高校」として新たなスタートを切りました。キャリア教育に力を入れ、「夢の発見」（1年次）、「夢の育み」（2年次）、「夢の実現」（3年次）をテーマに「ドリームプロジェクト」を取り組んでいます。また、平成30年には、山梨県一身延町一南部町による「身延・南部地域連携型中高一貫教育の実施に関する協定書」を締結し、翌31年に連携型中高一貫教育校となり、さらに、令和2年4月には、学校運営協議会を設置、コミュニティ・スクールとして地域に根差した学校づくりを進めています。

一昨年、創立100周年を迎えた本校の卒業生は2万3千有余人、県内外で活躍しています。彼らが愛した、北原白秋作詩（作詞ではないのだそ

うです。）・山田耕筰作曲の校歌や、開校当時から変わらない「質実剛健」「互助互譲」の校訓は、在校生たちにもしっかりと受け継がれています。地域の人口減少など社会の変化の中で、小規模校となってしまいましたが、部活動なども活発に行われており、特に陸上競技部や演劇部は目覚ましい活躍をしています。



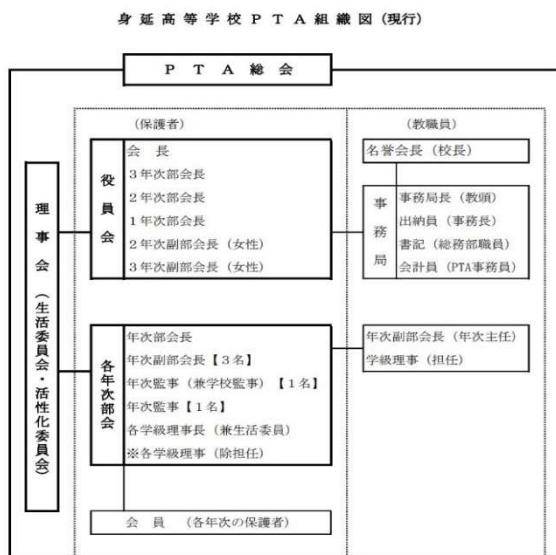
### 2 PTA活動の概要

本校のPTA組織は、各クラスから選出された3名の学級理事が「年次PTA理事会」、「PTA理事会」を構成し、本部役員として会長、副会長5名（各年次部会長+女性2名）、監事3名（各年次1名）が理事会によって選出されます。また、全理事が2つの委員会（生活委員会・活性化委員会）の委員として活動しています。

生活委員会は、各クラスの学級理事長とスクールライフ部（生徒指導・生徒会指導の分掌）職員とで構成されています。年2回の会議では、どのようにしたら生徒が安全に学校生活を送れるかという視点で意見交換をしています。新型コロナウイルス感染症の流行以前には、校門前での登校

指導やあいさつ運動なども行っていました。

活性化委員会は、学校の活性化に P T A も一役買おうということで、10年ほど前にできました。各クラス2名の学級理事とスクールサポート部（保健・環境整備・厚生・渉外等）職員が所属しています。コロナ禍以前には、学園祭にバザーで参加させてもらったりもしましたが、現在は学校行事「ライフミュージアム」への参加・協力が主な活動です。



### 年間事業計画（令和6年度）

4月

- 会計監査
- 年次 P T A 理事会
- 第1回（新旧）理事会
- 第1回生活委員会
- 第1回活性化委員会
- 年次 P T A 部会総会
- 定期総会
- 学級 P T A

7月

- 関東高P連千葉大会
- フードドライブ

8月

- 全国高P連茨城大会

9月

- 第2回理事会

### 第2回生活委員会

### 第2回活性化委員会

10月

- ライフミュージアム
- ウォーキング大会安全指導

2月

- P T A 役員会
- 3年次 P T A 理事会

3月

- 3年次 P T A 部会総会
- P T A 新聞発行

### 3 主な取り組み

#### ①フードドライブ

平成28年に県高P連の呼びかけに応える形で始め、以後毎年1回行っています。気軽に参加できるように、三者懇談の期間中に、決められた場所に置くだけ、というやり方で行っています。これまででは、期間終了後本部役員が仕分けをして、フードバンク山梨に届けていました。今年度からはJRC委員会の生徒が仕分け等に協力してくれます。



#### ②ライフミュージアム

本校では、平成18年度に、当時の美術教員の発案で、学校を美術館に見立てた「学校美術館構想」展を1週間の会期で開催。生徒の授業作品や美術部の作品を展示するほか、特別展として県内作家の作品を展示し、アーティストトーク（特別

展の作家に来校いただき、芸術の授業で話していく  
ただく催し)などを行いました。

平成20年度からは、従来の催しに、家庭科の授業作品の展示、福祉講演会などを加え、「ライフミュージアム」と称して、休日には、美術部員や家庭クラブ員によるワークショップなども行いました。



平成26年度、ライフミュージアムの特別部門の一つとして「PTA・地域作品展」が新たに加わり、PTAに企画運営が任せられました。以来、活性化委員会を中心に有志の方々の協力を得て、展示・会期中の運営補助・片付け等に取り組んでいます。「PTA・地域作品展」は、文字通りPTA（特に生徒の保護者）と地域住民のさまざまな作品を展示しています。活性化委員会を中心になって行う行事ですが、全会員に協力を呼びかけています。作品募集も兼ねて、夏休み前に予備通知を出し、夏休みが明けたところで改めて協力者を募ります。作品を出展する会員は多くはないですが、家族（生徒の祖父母や兄弟姉妹など）やご近所の方の作品を借りててくれる人は年々増えてきました。会員として出展した方が、お子さんの卒業後に地域住民として出展してくれることも多くなりました。展示や片付け、休日の会場当番にも、多くの保護者が協力してくれます。



### ③ウォーキング大会

長年続けられてきた強歩大会が、新型コロナウイルス感染症の流行による中止や規模縮小を機に見直され、令和3年度よりウォーキング大会という形で、行われることになりました。強歩大会に比べ、距離が格段に短くなったことや、速さを競ったり、自分の限界に挑戦したりするという要素がなくなったことに対する物足りなさを感じる生徒・保護者もいますが、おおむね好評です。現在のコースには、身延山の境内や参道も含まれていて、本校のある身延の地を知るいい機会になりました。秋の身延路の自然の美しさや歴史ある町並み、応援してくださる地域の人々の温かさに触れ、感動を覚えた生徒も多くいるようです。

PTAでは、コース上に立って生徒の交通指導・安全指導にあたっています。安全指導にあたった会員からは、「安全に大会を終えるお手伝いができてよかったです」という声とともに「普段とは違う子どもの顔を見る事ができた」、「生徒たちの気持ちよい挨拶が嬉しかった」、「先生方や保護者の皆さん、地元の方と交流できて楽しかった」という感想が寄せられました。



#### 4 これからのPTA活動

本校のPTA活動は、「できるときに、できる人が、できることを」行うという形でなるべく負担感なく参加できるようにすすめてきました。しかし、生徒減少に伴う会員数の減少や生徒の通学範囲の広域化、保護者等の多忙化など、さまざまな要因から会議への出席や学校行事の協力などに人が集まりにくくなっています。

そこで、今後は、ICTを利用することによって学校と保護者等を直接結び、双方向のやり取りができるようしていくことが大切ではないかと考えます。本校には県外出身者などのための男子寮があり、20名ほどの生徒がそこで生活していますが、彼らの保護者との連絡に苦慮していた時期もありました。ICTの利用は、寮生保護者にとっては特に安心材料の一つになり得るのではないかと思います。昨年度は、Classi（Classi＜クラッシャー＞株式会社が提供する学習支援クラウドサービス）を使って、高P連会費の値上げに関する書面決議や、PTA会則改定に関する書面決議のお願い、時程の変更の連絡、イベントのお知らせなどを进行了。書面決議については、Microsoft Foamsを活用し、会員の3分の2ほどの回答を得ました。昨年は試行の段階で、紙媒体による通知や返信を併用していましたが、今年度は全面的なペーパーレス、ICT利用を目指しています。昨年度の試行によって、保護者間にまだICT利用が定着していないことがわかりましたので、今後より丁寧な働きかけをお願いしていく予定です。



ICT利用によって双方向のやり取りができれば、学校への提案や要望も伝えやすくなります。学校へ出向かなくても学校の様子がわかります。

学校の様子がわかれば、それを話題に子どもとの会話も弾むかもしれません。学校行事に参加してみようと思うかもしれません。役員だけでなく、一般の会員のPTA活動に対する関心も高まるのではないかでしょうか。場合によっては、会議も集まらずに行え、時間的拘束も少なくなります。拘束時間が減り、負担感が減れば、敬遠されがちだった役員就任も進んで引き受けてくれる会員が増えてくるのではないかでしょうか。ICT利用によって、保護者の負担感の軽減、事務の効率化等が実現できれば、従来の活動もより充実させることができると考えます。

学校では「チーム身延」というスクールスローガンを掲げています。生徒・教職員・保護者のみならず地域の人々をも巻き込んだ「チーム」の一員として、我々PTA会員も、「生徒が通いたい」「保護者・地域の人々が通わせたい」「学校教職員が働きたい」と思える学校づくりに努めていきたいと思います。